

## 飛翔な日々



飛翔編集委員が自由気ままにつづるコーナー

Viewpoint

25生 藤尾 春菜

三月二日。只今フィリピン出発直前です。ドキドキしています。かなりドキドキです。今回フィリピンでは、主に英語学習と、現地大学生との復興会議、それからフィリピンは昨年十月・十一月に台風・地震の被害にあったため、ボランティアの三つの活動を中心に行ってきます。また、南国のきれ〜いな海が待っています！

特に、一年生のみなさん！大学生は気持ちがあれば何こともchallengeできる！ということを実感してください。高校まではフィリピンに行けるとは思っていませんでした。しかし大学では可能性がぐんと広がります。総合科学部はそれがやりやすい学部だと思います。大学には様々な活動があるし、募集もかかっています。興味と情報収集の姿勢があればたくさんが発見があります。友達や先輩からの刺激を受けながら、今までとは違った大学生活にしてください。

ひとりごと

25生 小林美月

二〇一三年、富士山が世界文化遺産に登録された。富士山の麓、静岡県ではそれはそれはすごい盛り上がりだった。あらゆるお店には富士山グッズの特設ブースができていたし、食べ物屋さんでも富士山にあやかった商品がたくさん見られた。それもそのはずだろう。静岡っ子は毎日毎日富士山に見守られ、計り知れない恩恵を受けて生活しているのだ。富士山に対する愛着はかなり深い。みんな富士山のことを大好きだ。

だが一方で面白い現象が起きている。富士山が世界文化遺産に登録された後、登山者数が一番増えたのは静岡県民・山梨県民と、地元住民であるらしい。富士山が世界文化遺産に登録され、はっとしたように「自分はまた富士山に登ったことがない！」と気が付く地元住民が多いのではないかと思う。

近くにあるもの、自分にとって当たり前の存在になっているものについてじっくり向き合ってみる、ということを私たちはいつい忘れがちである。家族、周囲の人、周りの自然、…たくさんものに支えられて今の自分があることをいつも忘れずにいたい。富士山は改めてそのことを私に思い出させてくれた。

そんなことを考えている私も、まだ富士山に登ったことのない、そしてこれから富士登山をしようと企んでいる、静岡県民の一員である。

ぼかぼか

25 生 上江洲 まどか

個人ラインで心配してくれる人や、実際に食べ物とかを私の家に届けてくれる人もいた。

一月に風邪をひいた。

体が丈夫な私にしては珍しく9度近い熱が出た。熱出るの何年ぶりだろうーとか思いながら

twitter 177

私「弱って初めて家族のありがたみ実感した(；)ちよとだけホームシック。ちよとだけ。」

軽い気持ちでおしゃべり相手欲しさにつぶやいた。

友達「テスト前に弱ってるのか」

私「熱出てる(笑)」

私のそのつぶやきに対して

「大丈夫——?」

「早く良くなればいいね!」(；)

「むりせんのよ!」

「なんか欲しいものある?」

「人で無理せず頼ってね!」

まさかこんなに多くのリプが帰ってくるとは思ってなかったから

私には「こんなに心配してくれる人がいるんだなって実感できてすごく嬉しかった。

結局熱はその後二日かけてやっと下がったからなかなか身体的には厳しかったけれど

風邪をひいたおかげで心は暖かくなった。

今度周りの人が困っていたら助けてあげる側になりたいな強くそう思えた。

ミニ書齋

25 生 島田優太郎

「ミニ書齋をつくる。」

そんな本が書店においてあった。それを見て僕は少し得意な気分になったのだ。「なあんだ今頃、僕のほうが先取りしている!」

寒さは和らぎ、春の気配が近づくと二月の終わり、僕は部屋の模様替えをした。最初は机と本棚を入れ替えるくらいのことしか考えていなかったが、奇妙な好奇心が働き「もつと奥まった秘密基地のようなものを作りたい。」と思ったのである。秘密基地。子供時代、一度は作ったことがあるのではないだろうか。あの狭さ、暗さ、カビ臭さ、そして今にも崩れ落ちそうなくらいの不安定さ。僕はそれを再び求めた。

さすがに賃貸物件をカビ臭く、崩壊寸前にまで追い込むことは憚られたので、とりあえずは狭さと薄暗さを追求した。壁と本棚、移動式ラック

で四方を囲み、明かりは卓上ランプのみを使うことにした。いささか簡単ではあるが、一応の完成である。しかし何か物足りない。書斎にはあるはずだ。私を落ち着かせ、かつ思索にインスピレーションを与えるような何かがある。

思案に思案を重ねた挙句、僕はコーヒーセットを置くことに決めた。けれど、これである。置いた瞬間に分かる整合感。あたかも初めからそこにあったかのように鎮座し、書斎の中ですでに揺らぐことのない市民権を獲得している。さきほどまでの物足りなさはどこへやら。ほんの少しの工夫で雰囲気もこうも変わるとは。「神は細部に宿る」とはよく言ったものである。

完成だ。

大学生はとかく人間関係が複雑かつ密接になる。特に総科はイベントが多く、みんなとワイワイやるのには息苦しさを感じる人もいるのではないだろうか。そういう人は是非ミニ書斎を作ってみてほしい。外の喧騒を尻目に、大人の秘密基地にこもる。これも大学生の楽しみの一つであろう。



いつだってアカペラで

25生 星原 有里

飛翔とも総科とも関係ないですが、自分のことを書かせていただきます。

私はアカペラサークルに所属しています。アカペラというのは声だけでハーモニーを作り、楽器までも表現する音楽の形です。ハモネプという番組でお馴染みだと思われれます。私もその番組で知った一人ですが、実際に入ってみてアカペラをやる側になったところ、思っていた以上に多様な音楽を表現していて驚きました。Cover だけでなく洋楽もあり、ジャズやボサノバ、ロックなどの曲を原曲の雰囲気も取り入れつつ、アカペラ独自の世界観で表現するバンドもありました。更にお笑い芸人顔負けのネタをするバンドもあります。プロのアカペラグループも国内外問わずたくさんあり、アカペラのイベントも盛んに開催されています。

私は今ではすっかりアカペラの世界に魅了され、今まで聞いたことのない音楽に触れつつ、楽譜を書いて歌って日々を楽しんでいます。

大学に入って音楽に対する考え方や世界観を広げることができました。同じように興味を持ったことに一歩踏み込んだ好奇心を持ち、視野を広げることができたらなと思います。

